

# ハラスメント防止社員研修プログラム

# 株式会社アドバンテッジリスクマネジメント

<https://www.armg.jp/business/training/#wrap>

## 25年超の実績と知見で、職場のハラスメント防止を強力支援！

提供可能エリア(可能エリアが青塗)			
北海道	東北	関東	甲信越
北陸	東海	近畿	中国
四国	九州	沖縄	海外

提供可能法人規模 (◎：実績あり、○：提供可)			
50人未満	1,000人未満	10,000人未満	10,000人以上
○	◎	◎	◎

**サービスの目的・期待される効果**  
 【凡例】◎：実証評価 > ●：理論的裏付け > ○：ユーザー評価

基盤整備	法制度対応	●
	制度・施策体系の整理	●
	人事・産業保健業務の効率化・負担減	—
	組織状況の把握	—
取組の普及・浸透	サーベイ受検率向上	—
	相談窓口の利用率・認知率向上	●
	プログラムへの参加率・利用率向上	—
	不調の早期発見・対応	—
	ヘルスリテラシー・意識向上	—
	仕事のストレス要因低減	—
	心理的安全性・上司のサポート力向上	●
周囲のサポート力向上	○	
心の健康・業務パフォーマンス	生活習慣の改善	—
	健康状態・心理指標改善	●
	アブセンティーズム改善	○
	プレゼンティーズム改善	●
	ワーク・エンゲージメント向上	●
	従業員エンゲージメント向上	●
労務指標改善(離職率、残業時間等)	—	

**サービスの概要・特徴**

アドバンテッジリスクマネジメントのハラスメント防止研修は、25年以上の実績に基づき、管理職・一般社員・相談窓口担当者など、対象に応じた専門性の高いプログラムを提供しています。

最新の法令や判例を踏まえ、無自覚なハラスメント行為の未然防止に重点を置き、EQ（感情マネジメント）やアンコンシャス・バイアスの理解を通じて行動変容を促進します。

双方向型オンライン研修にも対応しており、グループワークやケーススタディを取り入れた飽きのこない構成が特長です。また、EQI®や簡易アセスメントを活用して受講者の行動傾向を可視化し、自律的な改善を後押しします。

当社サーベイをご導入の企業様へは、サーベイ結果でハラスメント課題の見られる層を対象とした最適な研修をご提案し、サーベイデータを活用した効果検証も行います。

**導入企業の評価**

2024年度に当社フォーマットの受講後アンケートに回答をいただいた47社/3479件の結果より、下記のようなコメントをいただいています。

「ハラスメントの判決例などを見て当然だと思うものが多い一方で意外だと思うこともあった。まだ主体的に思い込んでいることがあることに気付けた」（法制度対応）

「これまでハラスメントに限らず、職員の相談窓口がなかったため、上手く対応できるかはさておき、窓口があることで働く環境整備になる」（相談窓口の利用率・認知率向上）

「日々の自分自身の言動にも気をつけなければならないが、ハラスメントを原因としたメンタル不調者対応にも役立てたい」（不調の早期発見・対応）

「アンコンシャス・バイアスの色々な事例を基に、自分が無意識に言っていたことが少なからずあったので、身に沁みました」（ヘルスリテラシー・意識向上）

「心理的安全性という共通認識が大切だとおもいました」（心理的安全性・上司のサポート力向上）

「人の感覚、受け止め方は様々。常に相手への気遣いを忘れない対応を心掛けることが重要」（周囲のサポート力向上）

## ハラスメント防止社員研修プログラム

## 株式会社アドバンテッジリスクマネジメント

<https://www.armg.jp/business/training/#wrap>

### 理論的裏付け

#### 採用している理論の概要

当社がハラスメント防止研修において採用している理論は、以下の3つの枠組みに基づいています。まず、法的・制度的枠組みとしては、厚生労働省の「職場におけるハラスメント防止対策マニュアル」やパワハラ防止法などの関連法令に準拠し、組織内制度の整備と法令遵守の実効性を支える理論的基盤としています。次に、アンコンシャスバイアス理論（提唱者：Banaji & Greenwald）は、人が無意識に持つ偏見が職場での差別的言動に影響することを示すものであり、偏見の自覚と行動変容を促す認知心理学の知見に基づいています。さらに、EQ理論（提唱者：Salovey & Mayer）は、感情の認知・調整・活用に関する能力を扱うもので、特に対人関係力や共感力の向上に寄与し、心理的安全性と良好な職場風土の形成に資する枠組みです。

### 実証評価

#### 学術介入の有無

学術研究機関等による科学的な効果検証

学術研究期間等が介在しない独自の効果検証

#### エビデンスの水準

ランダム化比較試験

非ランダム化比較試験

単純前後比較などの準  
実験的研究

コホート研究

横断研究または症例対  
照研究

#### 実証評価の結果概要